



必要なのはタクシーへの支援 白タクは不要

— 衆議院 国土交通委員会で審議 —

11月10日、衆議院の国土交通委員会が開催され、昨日の参議院国土交通委員会に引続き、立憲民主党の議員がライドシェア問題について質問した。まずタクシー政策議員連盟で幹事長を務める小宮山 泰子 議員(埼玉)が「いわゆるライドシェアは、海外で様々な問題があることから、既に多くの弊害が起きているが国交省は把握しているのか。」と問い、更に「ライドシェアの定義が曖昧なことから、規制改革会議等において、ライドシェアという言葉が都合よく解釈され、また都合よく使用される事で日本では白タクとして違法なライドシェアがなし崩し的に認められてしまわないか。」と正した。齋藤 国交大臣は参議院での答弁に引続き「運行や車両管理の責任の主体を置かず、自家用車を使用してドライバーのみが、それらの責任を担い有償で旅客を輸送するのは、安全の観点から問題があり認められない。」との従来からの方針を堅持する考えを強調した。続いて、タク議連で幹事を務める 城井 崇 議員(福岡)が質問に立ち「タクシー運転者不足を解消し、利用者利便を向上させ、運転者の生活を守るためにこれまでも検討会等で様々な対策が協議されてきた。ライドシェアの議論よりそれらの施策の実行が大切ではないのか。」と、タクシー供給力の強化に繋がるタクシー事業者への支援対策の早期実行と更なる拡充を求めた。

必要なのは安全で安心できる輸送手段を安定的に地域で確保することだ。それは今までもそしてこれからもタクシーが担っていかなければならない。